言語確率表現は事象の望ましさに影響を受けるか

○山田加奈子¹・三宮真智子¹

(大阪大学大学院 人間科学研究科)

キーワード：言語確率表現・事象の望ましさ・誤解

The effect of desirability of the event on verbal expressions of probability

Kanao YAMADA¹ and Machiko SANNOMIYA¹(¹Graduate School of Human Sciences, Osaka Univ.)

Key Words: verbal expressions of probability・desirability of the event・miscommunication

目 的

コミュニケーションの主たる目的は、送り手の意図する情報を他者に正しく伝達することである。しかし、送り手の主観的評価が付加された情報や表現は、送り手の意図通りに正しく伝わらずに、誤解が生じやすい(三宮, 1987)。本研究では、主観的表現のうち、特に確率表現について扱う。

確率は数値(「可能性は80%だ」など)でも主観的な言語表現(「確実だ」「ありえない」など)でも表すことができる。これまでに言語確率表現を数値に対応づけ、評定させる研究は数多くなされてきた。田中(1995)は、選択式で数値確率と言語表現を相互置換させたが、そもそも、この方法では数値確率を人がどのような言語表現で表すのかを十分に把握することは困難である。これに対し、山田・三宮(印刷中)は自由記述法を用いて、数値確率を言語確率に置き換えた場合の言語表現を収集・分類した。彼らは、言語確率表現への事象の望ましさの影響の検討を課題としていた。

そこで本研究では、事象の望ましさ要因(手術の成功/失敗)を付加し、数値確率と言語表現の対応について検討する。

方 法

実験参加者 大学生・大学院生 60 名。

課題 「この手術が起こる可能性は〇%だ」という状況について、〇%が数値で呈示された確率(0, 10, 20, ..., 90, 100%の11段階)である場合に、「手術が成功する可能性は…」に続く日本語表現をそれぞれ1つずつ記述するよう求めた。同様に、「手術が失敗する可能性は…」に続く表現について記述を求めた。なお、課題の内容理解を促すことを目的に、回答例として「50%⇒半々だ」を呈示した。同じ表現を用いると思った場合には「//」と記入するよう指示した。

実験計画 事象の望ましさ(高群：成功/低群：失敗)について被験者内要因。数値確率(昇順/降順)と成功/失敗状況の呈示順序は、カウンターバランスをとった。

手続き 個別質問紙形式で実施した。質問が書かれた小冊子を配布し、各自回答を求めた。所要時間は15分であった。

結果と考察

本研究では、言語表現の多様性を「言語表現の多様性=表現の種類数/回答者数」として算出した。これは、0~1までの値をとり、1に近いほどより多様な言語表現が含まれていることを表す(図1)。40%、60%の場合に言語表現の多様性は高いが、事象の望ましさによる顕著な差異があるとは言えない。

表1に広い数値確率の範囲に対して用いられていた表現を示す。「高い」や「かなり高い」といった言語表現が広い範囲で使用されていた。「高い」のような文末表現および「かなり」といった程度量表現のいずれも、明確な境界を持たないファジーな表現である。さらに、主観が介在しやすく、表現の用い方には個人差がある(三宮, 1987)。そのため、広い範囲で使用されたと考えられる。

図1. 各数値確率に対する言語表現の多様性

また、生起確率が「高い」という表現は、望ましさの低い事象の方が低い確率から用いられ始める傾向にあることが示唆された。すなわち、望ましくない事象の方が、起こりやすさがより強く認識されるのではないかと考えられる。

40%、60%といった確率においては特に、送り手が用いる言語確率表現そのものの幅が大きく、これらの幅広い表現を他者(受け手)に伝えた場合には、受け手の想定する確率の幅がさらに広がることが予想される。

言語確率表現への事象の望ましさの影響が示唆されたが、その理由について今後さらなる検討が必要である。また、話題への関与度、事象生起に対する確信度の影響についても明らかにしていく予定である。

引用文献

- 三宮真智子(1987). 人間関係の中の誤解：言語表現の誤解に関する基礎調査 鳴門教育大学研究紀要(教育科学編), 2, 31-45.
- 竹村和久(1990). 言語的確率表現用語の心理学的研究 第6回ファジィシステムシンポジウム講演論文集, 335-338.
- 田中豊(1995). 数量表現による意思決定：主観確率からみた意思決定 実験社会心理学研究, 35(1), 118-123.
- 山田加奈子・三宮真智子(印刷中). 数値確率はどのような言語確率表現に置き換えられるのか 日本教育心理学会第55回総会発表論文集.

表1. 広い範囲で使用されていた言語表現

成功する場合(%)	言語表現	失敗する場合(%)
60-100	(可能性が) 高い	30-100
70-100	(〃) かなり高い	50-100
80-100	(〃) 非常に高い	70-100
90-100	(〃) 極めて高い	80-100
0-90	(〃) ある	10-60
0-30	(〃) 極めて低い	10-60